

衆議院法務委員会ニュース

平成 22.4.27 第 174 回国会第 10 号

4 月 27 日（火）、第 10 回の委員会が開かれました。

- 1 刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律案（内閣提出第 53 号）（参議院送付）
- ・千葉法務大臣、加藤法務副大臣、泉内閣府大臣政務官、足立厚生労働大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
 - ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成 - 民主、自民、公明、日本、国守）
 - ・辻恵君外 2 名（民主、自民、公明）から提出された附帯決議案について、稲田朋美君（自民）から趣旨説明を聴取しました。
 - ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
（賛成 - 民主、自民、公明、日本、国守）

（質疑者及び主な質疑内容）

辻 恵君（民主）

- ・国家の刑罰権における公訴時効制度の位置付けについて、法務大臣の認識を伺いたい。
- ・公訴時効制度の見直しについては、主に被害者の処罰感情の観点から議論するのではなく、本質に遡って議論する必要があると考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・公訴時効の廃止・延長に伴い、殺意の有無により公訴時効の期間が大きく異なることになるため、捜査機関による殺意の認定が適切に行われる必要があると考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・公訴時効の廃止・延長の効果について検証する必要があると考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。

山 尾 志桜里君（民主）

- ・犯罪被害者等の民事上の損害を国が立て替える制度の創設について、法務大臣の所見を伺いたい。また、民法の債権法改正の議論において、不法行為による損害賠償請求の期間の見直しについては、犯罪による損害への配慮が必要であると考え、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・性犯罪の公訴時効の在り方を見直す必要性について、法務大臣の所見を伺いたい。

馳 浩君（自民）

- ・法改正に当たり、犯罪被害者やその家族の支援の在り方について検討したのか法務大臣に伺いたい。また、冤罪発生の危険性や第三者が事件に巻き込まれる可能性等の問題が指摘されているが、これに対する法務大臣の所見を伺いたい。

- ・公訴時効の廃止・延長の遡及適用は、憲法第 31 条及び第 39 条に反するのではないかと指摘があるが、これに対する法務大臣の所見を伺いたい。
- ・公訴時効の廃止・延長を遡及適用することについて、日弁連が指摘する取調べの可視化、弁護人の立会い、時間制限の検討の必要性についての法務大臣の認識を伺いたい。法制審議会でのどのような議論があったのか、法務副大臣に伺いたい。

森 英 介君（自民）

- ・「凶悪・重大犯罪の公訴時効の在り方に関する省内勉強会」の設置の経緯、昨年 3 月の中間取りまとめの内容、昨年 7 月の最終取りまとめまでの検討の経緯について、法務大臣に伺いたい。また、省内勉強会の最終取りまとめと比べて、更に検討が進んだ点はどのようなものか。
- ・法制審議会に対して公訴時効の見直しの方向性を示さずに白紙の状態で諮問した理由を伺いたい。また、法制審議会の結果が出たときの感想を法務大臣に伺いたい。
- ・医療行為への業務上過失致死傷の適用の在り方について今後どのような検討を行うのか、厚生労働大臣政務官に伺いたい。
- ・本法律案は公布の日施行されるが、早期施行に向けた法務大臣の決意を伺いたい。

大 口 善 徳君（公明）

- ・時効の廃止に伴い、膨大化が予想される証拠物の保管、管理についてどのように対応するのか警察庁に伺いたい。
- ・DNA 型情報等の鑑定資料の保管ルールを法定化する必要性について法務大臣及び警察庁の見解を伺いたい。

- ・捜査資料、証拠物等のリストを弁護側に開示する必要があると考えるが、法務大臣の認識を伺いたい。
- ・犯罪被害者等給付金支給制度の見直しや新たな補償制度の創設に向けた内閣府及び警察庁の取組状況について、伺いたい。